琉球大学学術リポジトリ

初校 『南洋群島の研究』序文、目次

メタデータ	言語:
	出版者:
	公開日: 2018-04-16
	キーワード (Ja): 矢内原忠雄
	キーワード (En): Yanaihara Tadao
	作成者: 矢内原, 忠雄
	メールアドレス:
	所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/38002

矢内原忠雄文庫

史料名	初校『南洋群島の研究』序文、目次
封筒番号	268
原文所所蔵者	琉球大学附属図書館
撮影年月日	平成 17 年 11 月 15 日
撮影者	富士写真フイルム 株式会社
備考	

矢内原忠雄文庫

封筒番号： 268

史料名	初校『南洋群島の研究』序文、目次
資料形態	B4酸性紙
枚　数	9
頁　数	9
縦（cm）	
横（cm）	
厚さ(cm)	
書誌的事項	南洋 初校＋序文の追加原稿(B5)。酸化した紙がぽろぽろ落ちてくる。劣化著しい。 今泉分類記号： P

琉球大学附属図書館

序文ニ追ッカス

南洋群島序文追加

上、一字下ゲ

附記

(1) 本書に附せる南洋群島地圖は南洋廳作成の南洋群島要覽に附せる地圖に多少の変更を加へたるものであり、又ヤップ島地圖はヤップ支廳作成の地圖による。

(2) パラオ貨幣圖はクバリーに基き、ヤップ貨幣圖中俵貨、骨貨、ガウ貝貨はミュラーに従ひて模寫したるものであるが、多少の変更を加へたる箇處がある。又石貨、蝶貝貨は實物の寫生である。

東京 文房堂製
10—20

1/12

一の発音である。~~[illegible]~~従つて外人が島民語をローマ字綴りに統一に過ぎない。例へばpとbと、又、kとkh（ん）とを区別する為に無数のアポストロフィを使用する事は、殆んど不可能である。

マ字綴りに表現するに際しても、なほ、自身島民語に通じず、何れにしても、統一の綴り方を次で最善と為すやの自信無きを以て、敢て統一を試みたりしものである。

(3) 本書記載の島民語ローマ字綴りは、アルファベットの数少く、殆ど十七、八を有するに過ぎず、且つ、無し島民の言語は、アルファベットの数少く、殆ど十七、八を有するに過ぎない。例へばpとbと、又、kとkh（ん）とを区別する為に無数のアポストロフィを使用する事は、殆んど不可能である。

一の発音である。~~[illegible]~~従つて外人が島民語をローマ字綴りに表現するに際しても、なほ、自身島民語に通じず、何れにしても、統一の綴り方を次で最善と為すやの自信無きを以て、敢て統一を試みたりしものである。

(3) 本書記載の島民語ローマ字綴りは、アルファベットの数少く、殆ど十七、八を有するに過ぎない。例へばpとbと、又、kとkh（ん）とを区別する為に無数のアポストロフィを使用する事は、殆んど不可能である。

千葉の名頭の教授、江二中尉は、仕事記載の統計表中に、

(4)

が、その主任たる技師と共に熱心なる研究を遂ぐるの

と共に研究の教授と完全なる技師を要するは田舎人の通例にして

あるが、その多くは田舎人の通例にして

たものである。

(5) 事記載の統計表は、その結果について

不備なる点多し。特に精密なる

点の補足に努めつつあり。

ことも容易でないから、止むを得ずこゝに筆を收め、太平洋問題調査會の慫慂の下に英文出版に先ち公刊に附するものである。同會が終始篤大に私の研究を遇せられたに對し謝意を表する。調査及び旅行については南洋廳並にその各支廳其他所屬官衆を始めとして、公私の團體及び個人の好意ある援助を得たことを深く謝する。尚資料の蒐集整理に就ては曾和重三君、轉寫筆記淨書校正に就ては人保田ちよ子嬢の誠實なる助力を得たことは、私の特別感謝するところである。

昭和十年（一九三五年）六月

東京帝國大學經濟學部研究室にて
矢内原忠雄

序文

太平洋問題調査會の共同研究項目の一つに「太平洋に於ける屬領並にその住民」といふのがあつて、日本の同調査會は一九三二年五月私に對して委任統治地域南洋群島の研究を依囑せられた。私は研究の主眼をば、日本の植民政策の下に於て島民の社會的經濟的生活の近代化過程が如何に進捗せるかの問題に置き、而して一方に於ては日本人の發展による南洋群島の開發との關係に於て、他方には日本の前任者たる獨逸時代との比較に於て、日本の統治の特色を明かにせんと欲した。

私は文獻上の研究の外に官廳、學校、病院、教會等に質問書を發する等の方法によつて、南洋群島に於ける社會的經濟的事實、殊に島民生活狀態の調査から始めた。然るに地理的に我が國から遠隔であり、且つ社會的に我々の社會とは根本的に異る發達段階にある島民生活の實情をば、廉ながらにして知る事は決して容易でない。政府發行の文獻は現在の統計的事實の優れたる報告を含んで居るが、島民固有の社會組織に就ては殆んど得るところが無い。民族學者の著述は固有の社會組織についての報告を含んで居るが、社會科學的研究を之に加ふるにあらざれば島民生活の社會的經濟的意義を明かにするに足りない。況んや固有の社會的經濟的制度が崩壞して近代化し行く過程の分

析に就ては、政府の現勢報告も民族學者の著書も之を主たる研究の對象となさないのである。他方また現地照會の爲め發送したる質問書に對しては多くの回答を與へられたが、此種の調査方法に於ては適切なる質問事項の選擇その事が既に容易でないのみならず、回答も亦多くは粍を隔てて痒きを掻く嫌あるは止むを得ないことであつた。故に私は自ら現地に出張して調査することの必要を感じたのであるが、本務を有するが故に長期間の滯在を爲すことは到底不可能であり、やうやく一九三三年の暑中休暇を利用して南洋群島の主要島を一巡し、昨年の夏再び渡航して特にヤップを視察したのである。しかも第一回旅行は往復約二ケ月半の中約半は航海に費され、又第二回旅行は往復約四十日の中ヤップ島に滯在し得たのは僅かに二週間に過ぎない。かく短期間の視察であるから勿論多くを期待し難きことは始めから解つて居たが、併し乍ら百聞一見に如かずの效果を收めたる事は決して尠くなかつたのである。

昨年八月ヤップ島旅行より歸つた後、私は本書の執筆に著手した。然るに仕事は意外に困難であつて、私としては尠からず勞苦と時間とを之に投じたけれども、稿を改むる事數回にして尙不備と不滿足を殘して居る。併し乍ら調査會への報告提出の期限も空しく過ぎた事であり、又更に相當の長時日に亙つて現地に出張滯在して親しく調査せざる限り、今日の場合として之以上の事實を知る

要再校

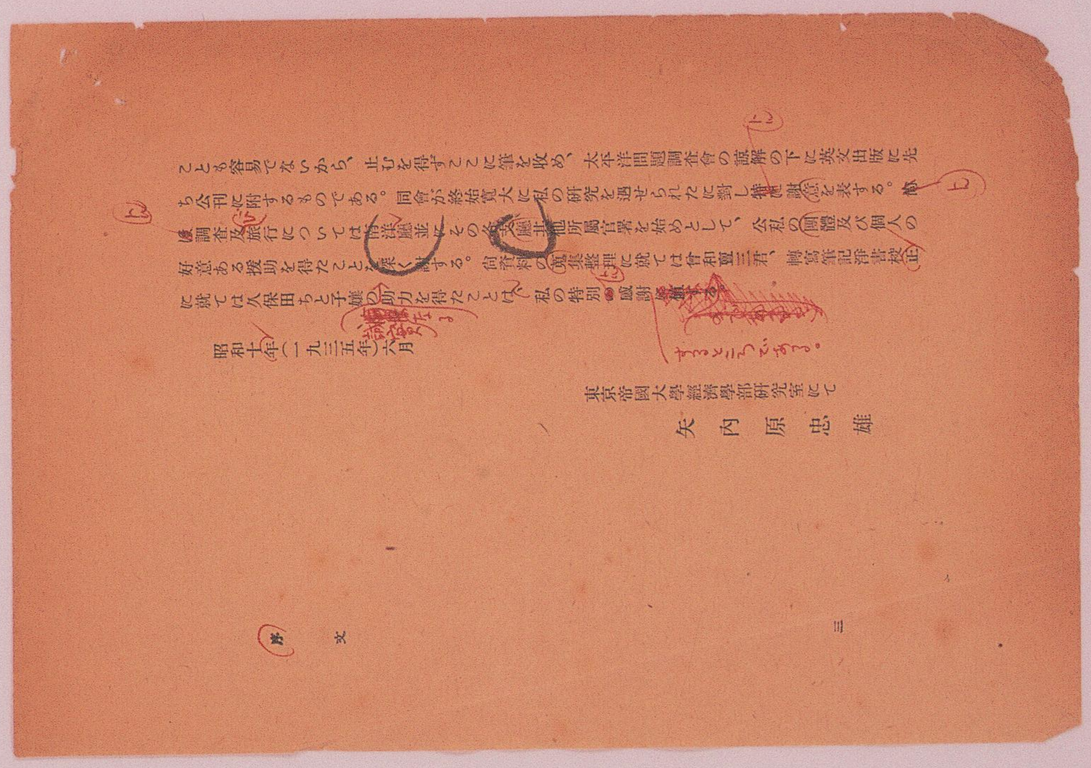
序文

太平洋問題調査會の共同研究項目の一つに「太平洋に於ける屬領並にその住民」といふのがあつて、日本の同調査會は一九三二年五月私に對して委任統治地域南洋群島の研究を依囑せられた。私は研究の主眼をば、日本の植民政策の下に於て島民の社會的經濟的生活の近代化過程が如何に進歩せるかの問題に置き、而して一方に於ては日本人の發展による南洋群島の開發との關係に於て、他方には日本の前任者たる獨逸時代との比較に於て、日本の統治の特色を明かにせんと欲した。

私は文獻上の研究の外に官廳、學校、病院、教會等に質問書を發する等の方法によつて、南洋群島に於ける社會的經濟的事實殊に島民生活狀態の調査から始めた。然るに地理的に我が國から遠隔であり、且つ社會的に我々の社會とは根本的に異る發達段階にある島民生活の實情をば、座ながらにして知る事は決して容易でない。政府發行の文獻は現在の統計的事實實の優れたる報告を含んで居るが、島民固有の社會組織に就ては殆んど得るところが無い。民族學者の著述は固有の社會組織についての報告を含んで居るが、社會科學的研究を之に加ふるにあらざれば島民生活の社會的經濟的特色を明かにするに足りない。況んや固有の社會的經濟的制度が崩壞して近代化し行く過程の分

析に就ては、政府の現勢報告も民族學者の著述も之を主たる研究の對象となさゝいのである。他方また現地照會の爲め發送したる質問書に對しては多くの回答を與へられたが、此種の調査方法に於ては適切なる質問事項の選擇その事が既に容易でないのみならず、回答も亦多くは靴を隔てて痒きを掻く嫌あるは止むを得ないことであつた。故に私は自ら現地に出張して調査することの必要を感じたのであるが、本務を有するが故に長期間の滯在を爲すことは到底不可能であり、やうやく一九三三年の暑中休暇を利用して南洋群島の主要島を一巡し、昨年の夏再び渡航して特にヤップを視察したのである。しかも第一回旅行は往復約二ケ月半の中約半は航海に費され、又第二回旅行は往復約四十日の中ヤップ島に滯在し得たのは僅かに二週間に過ぎない。かく短期間の視察であるから勿論多くを期待し難きことは始めから解つて居たが、併し乍ら百聞一見に如かずの效果を收めたる事は決して尠くなかつたのである。

昨年八月ヤップ島旅行より歸つた後、私は本書の執筆に著手した。然るに仕事は意外に困難であつて、私としては尠からず勞苦と時間とを之に投じたけれども、稿を改むる事數回にして尚不備と不滿足を殘して居る。併し乍ら調査會への報告提出の期限も空しく過ぎた事であり、又更に相當の長時日に亙つて現地に出張滯在して親しく調査せざる限り、今日の場合として之以上の事實を知る



ことゝ容易でないから、止むを得ずこゝに筆を收め、太平洋問題調査會の諒解の下に英文出版に先立ち公刊に附するものである。同會が終始覓大に私の研究を遇せられたに對し謹謝の意を表する。

本書調査及編纂並にその公表に關する。尚行政科の蒐集整理に就ては會和夏三君、樹島筆記清書殷正に就ては久保田ちと子嬢の助力を得たことは、私の特別の感謝の意を表する。

昭和十年（一九三五年）六月

東京帝國大學經濟學部研究室にて

矢内原忠雄

目次

序文……
参考書……
第一章　自然……一
第一節　地域……一
第二節　土地……四
第三節　資源……九
第四節　人種……一二
第五節　結論……一五
第二章　沿革……一七
第一節　發見……二一
第二節　再發見……二

第三節　分割……三〇
第四節　再分割……三三
第五節　占領前に於ける南洋諸島と日本との關係……三八
第三章　人口……四五
第一節　總說……四五
第二節　日本人人口……四九
第三節　島民人口……五三
第四節　島民人口衰退の問題……六八
第四章　經濟……八二
第一節　貿易……八二
第二節　投資……八七
第三節　移民……一〇二

第四節　企業と島民……一〇六
第五章　經　　濟（續き）……一一八
第一節　島民の經濟……一一八
第二節　島民の貨幣……一一八
第一項　總　　説……一一八
第二項　トラック……一一九
第三項　クサイ……一一九
第四項　マーシャル……一二〇
第五項　ポーナペ……一二〇
第六項　パラオ……一二〇
第七項　ヤップ……一二〇
第三節　土地制度……一二一
第一項　マーシャル群島……一二一
第二項　ヤップ……一二一
第三項　パラオ……一二一
第四項　トラック……一二二
第五項　ポナペ……一二二
第六項　マーシャル群島……一二二
第四節　島民經濟の近代化……一二五
第六章　社　　會……一二七
第一節　社會組織……一二七
第一項　マーシャル……一二七
第二項　ポナペ……一二九
第三項　トラック……一三一
第四項　ヤップ……一三一
第五項　パラオ……一三一

第六項　其他……三四
第七項　概括並に崩壞過程……三四九
第二節　宗教……三七〇
第一項　固有の宗教……三七〇
第二項　外來の宗教……三七八
第三節　教育……三八七
第四節　衛生……三九九
第五節　社會生活……四一一
第七章　政治……四一五
第一節　政治組織……四一五
第二節　財政……四二七
第三節　島民人口の保護……四四八
第四節　委任統治……四七六
第五節　結論……四八六
附錄
南洋群島旅行日記……四九八
ヤップ島旅行日記……五二三
索引……